

リニアックの状況

- 3月24日(木): リニアック増水
 - リニアックトンネル部で10センチまでたまる。
 - 午後にオフィスの給水復帰。空調等は未復帰。
- 3月25日(金): 復電開始
 - 自家発電機を用いたリニアックの排水。アルカリ性(PH11)なので、中和してから排水。
 - 中央制御棟への配線と電話の復活開始。
- 3月28日(月): 復電本格化
 - リニアックの排水ほぼ完了。



Linac の 2 4 日の状況



28日の排水後に見つかった亀裂

他の施設の状況

- 3月28日 (月): MR(50GeV)、ニュートリノ、ハドロン等で本格的調査開始
 - MR、ニュートリノ、ハドロン、MLFの(物質生命)の照明が復帰。調査を開始。
- 3月29日 (火):
 - MR、ニュートリノ、ハドロンの浸水が進んでいる。これらはMRの壁のひび割れから来ている。PH8なので中和不要。28日に排水開始したが、29日より、本格的な排水開始。
 - リニアックとRCS(3GeV)は自家発電機を用いての作業が当面続く。
- 3月31日 (木): センター会議
 - RCS(3 GeV)では電線が大きく曲がっていることを懸念。
 - 中性子源では、周りのコンクリートが大きくずれている。大幅な修復が必要。

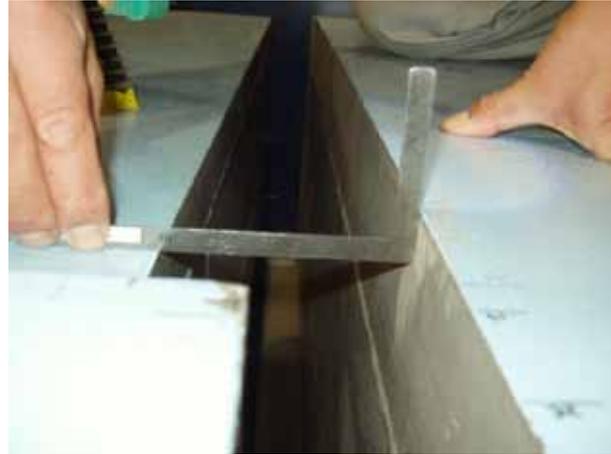


ひしゃげているRCS電線引き込み線



正常な引き込み線

遮蔽体のずれ



中性子源の遮蔽体のずれ
第2実験ホールBL20付近 (上)
第1実験ホールBL04付近 (左)



ニュートリノ用ホーンの
リモートメンテナンス用
ガイドセル。
架台から外れて危険な状態。

加速器トンネル内の状況



照明のあと、目視では健全性が確認されたもの
(詳細なチェックは近々行う)

- 1) 3 GeV メインリング (左上)
- 2) ハドロン スイッチヤードからのビーム
ライン (右上)
- 3) ニュートリノ用し超伝導ビームライン (左)

各施設の状況（ 1 ）

- 4月1日 (金):
 - 各施設でのトンネル内排水作業は順調。
 - 次のステップとして「真空テスト」と「除湿」。
 - GPS測定の復活と全装置での設置の必要性。
 - 中性子源とハドロンに関しては、数千トン以上の遮蔽体の除去と積み直しが重要。
 - 加速器機器の大きな外傷は観察されていないが、内部検査はこれから。リニアックでは以下のような損傷が見つかった。



リニアックのジョイント部にあるCeramic Vacuum Current Transformer (上と右上)。損傷が見られる変形したベロー (右)。

各施設の状況 (2)

- 4月1日 (金): (つづき)
 - MR、ニュートリノ、ハドロンの浸水を排除 (下図)。3GeV浸水なし。



ニュートリノ
前置検出器



排水前 排水後



ハドロン
実験施設
スイッチ
ヤード部



排水前 排水後

